

「おかえり」があるまちへ



多世代交流事業
旅する子ども食堂NICOHOUSE 代表：山路邦子さん

塾講師として肌で感じた経験

始めたきっかけは、33年間続ける学習塾経営の中で、子どもたちの「孤食」を肌で感じてきたことです。土曜日にも働く親御さんから500円玉を渡され、一人でコンビニのご飯を食べる子どもたちの姿を間近で見、「みんなで食べる食の楽しみを味わってほしい」「夕方まで安心して過ごせる居場所を作りたい」という想いが強まりました。

子育てが一段落したタイミングで周囲にその想いを伝えたところ、賛同した主婦仲間や塾の教え子の親御さんが自然と集まり、現在は約15名の心強いボランティアと共に活動しています。



子どもたちに旅行気分を味わってもらえるよう、世界や日本各地のご当地料理を毎月手作りで提供しています。これまでにタイやフィンランドなどの料理に挑戦し、時にはテーブルマナー体験も取り入れてきました。私の趣味である旅行を活かし、地図や豆知識を載せた手作りランチマットも用意し、子どもたちに喜ばれています。

当日はお弁当ではなく、食事を提供しており、現在は毎回50食ほどが出る活気です。食後はおもちゃを用意した遊び場を開放し、未就学児とママたちの交流の場となっています。さらに塾つながりの中学生ボランティアが小さな子の面倒を見るなど、2歳から80代までが自然に交わる多世代交流の場となっています。利用者の方からの「家だと野菜を食べないのに、ここだとバクバク食べる」という声や「海外に行ったことがないから、ここで海外旅行気分が味わえて嬉しい」といった温かい言葉がやがります。



塾の教え子がボランティアとして参加し、その日のメニューを描いています。



今後は午前中の空き時間を活用し、不登校の子どもへの支援にも取り組む予定です。学校へ行くのが難しい子どもたちが、まずは「家を出る一歩」として集まり、生活リズムを作るステップの場を目指します。学校が「行かなきゃいけない場所」なら、ここは『来てもいい場所』でありたい。塾でのサポート経験を活かして、学校側との連携も模索していきたいです。

子ども食堂は特別な場所ではなく、みんなで集まり、交流する場所です。「自分が行ってもいいのかな」と遠慮せずにお越しください。「ただいま」と入り、私たちが「おかえり」と笑顔で迎える、そんな温かい居場所を守り続けていきます。

「おかえり」と迎えられる場所に

トビラの先にある、温もり

心の拠り所を作りたい

かつてシングルマザーとして孤独の中で必死に子育てを経験した私は、周囲に悩みを相談できない苦しさを身をもって知っていました。だからこそ、いつか親子の心の拠り所になる場所を作りたいと考えていた中、最愛の長男が亡くなったというあまりにも悲しい出来事がありました。遺されたこのサロンの場所を前に「ここを誰もが元気になる居場所にしたい」と深く考え続け、令和3年12月に同じ志を持つ仲間と「コミュニティサロンクリスタルマユ」を設立しました。現在は、私の想いに共感してくれた10名の会員が、この活動を温かく支えてくれています。



多世代型子ども食堂事業
コミュニティサロンクリスタルマユ 代表：齊藤真由美さん

活動の中心である「みこちゃん子ども食堂」は週3回開催しています。提供するお弁当は、栄養と彩りを特に大切にしています。油断すると茶色くなりがちなので「緑・赤・黄」を意識し、細心の注意を払っています。

手渡す際は建物内に入ってもらい、「最近どう？」と声をかけると、アットホームな雑談から、親御さんや子どもの深い悩み相談へと自然に繋がっていきます。お腹の中にある頃から母親と通い続ける子は、高齢の利用者からも孫のようにかわいがられており、子どもを見守り育む温かさ、に満ちた場所になっています。

先日、普段はおとなしい子が高齢の方とトランプのババ抜きをしていて、今まで見たことがないほど弾けるような笑顔を見せてくれたとき、心の底から熱い感動がこみ上げました。年齢や境遇を超え、ただそこにいるだけで誰もが笑顔でつながり合える、そんな愛に満ちた空間の尊さを日々実感しています。



愛に満ちた多世代の輪

「そのままがいい」と言える社会に

命の大切さを伝えたい、という想いが活動理念の根底にあります。我慢をせず、自分らしさを見失わずに、ありのままの個性を認め合える社会を目指しています。「助けてあげる」というおごりではなく、一生懸命に生きる人間のピュアな姿から生きる力を分けてもらう、そんな「命の温かな循環」がここにはあります。一人で悩みを抱えているなら、どうか少しの勇気を出して、実家に帰るような軽い気持ちで足を運んでみてください。もう一人で頑張る必要はありません。また、ボランティアに興味がある方も、自身の人生を最高に充実させる生きがいや趣味として一緒に楽しみませんか。温かい家族のような仲間が、扉を開けて待っています。



建物に入った瞬間に、気持ち明るくなるよう部屋も明るくすることを心掛けています。

